

厚木市防火安全協会

公開座談会

厚木市防火安全協会では、一般社団法人全民救患者搬送協会理事長の小谷哲司氏と厚木市消防本部太田寛消防長をお迎えし、「事業所の従業員とその家族の安心・安全を考える」をテーマとして、協会代表理事との座談会を開催し、その模様をリモート公開しました。

開催までの経緯

厚木市防火安全協会では、例年研修視察を実施しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、今年度については中止することとなりました。

研修視察の中止に伴い、代替えの研修事業として、理事会としては、意見交換の場を設けたいと考え、「座談会」を提案させていただきました。

内容としましては、新型コロナウイルス感染症が拡大蔓延し業務体系が変化する中、事業所の安全対策への取り組みは各従業員の意識と努力で守られており、また、その多くの従業員は家族に支えられていることから、従業員とその家族の安全を考えることに重点を置く事になりました。

そこで協会では、一般社団法人全民救患者搬送協会（以下、（一社）全民救）の小谷理事長と厚木市消防本部太田消防長（以下、太田消防長）をお迎えし、協会代表理事との座談会を開催する運びとなったものです。



（一社）全民救患者搬送協会

（一社）全民救は、全国で唯一の民間救急事業所の団体となります。

現在、全国に23事業所が加盟し、救急車・マイクロバスを含む搬送用車両が60台、乗務員は約250名（この内看護師・救急救命士が約150名）となっています。



【協会では】

- 1 日本の「民間救急サービス」のあり方を真に追求し、そのエキスパートを目指すこと。
- 2 多様化する移送ニーズに的確に応じ、社会に貢献することを「基本理念」として活動されています。

近年、消防機関では緊急性のない救急車利用が増加し、本来の救急活動に支障が生じている状況が続いております。

このような状況を改善するために民間救急車の効率的な運用が求められることから、各地区の消防本部などでは、事業所からの患者等搬送事業の申請を受け、搬送車両の積載資器材や乗務員の資格、その他患者搬送に必要な事項の基準を満たした事業者について、認定制度を設けています。

民間救急の普及によって官民のすみ分けが進めば、救急搬送体制の充実につながると期待されています。



ダイヤモンド・プリンセス号のコロナ感染者対応 小谷理事長

座談会の前に、(一社)全民救の小谷理事長に、「ダイヤモンド・プリンセス号のコロナ感染者対応」と題し講話をしていただきました。

小谷理事長にはまず、厚生労働省・神奈川県からの要請、搬送業務の内容や感染防止対策、報道対応などについてお話しいただき、特に長距離の搬送では防護服の脱着が出来ないためオムツをはいて対応していたなど、参加者の皆さまも驚きの表情で聞き入っていました。

その後の活動や現状については、新型コロナに関する搬送の8割は県・市の搬送協定に基づくものやDMATからの要請であったが、昨今、大手企業や団体からの問い合わせが増えつつあるとのことでした。

結びに、今回の感染症搬送を通じて、車両の汚染区域と清潔区域のゾーニング及び、ガウンテクニックの重要性、並びに消毒の徹底という基本中の基本をあらためて実感し、今回の経験を生かした医療搬送サービスに心掛け、努力していく所存であると話しいただきました。



【補足：ダイヤモンド・プリンセス号横浜入港】

本年2月3日、日本政府は新型コロナウイルスの感染者が発生していたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の入港を認め、検疫を始めました。

しかし、感染の可能性がある3711人もの乗客・乗員を受け入れる施設はなく、感染者712人、死者13人が発生する「クルーズ船から始まった戦後最大の医療危機」となった。

厚木市消防本部におけるコロナ感染者対応 太田消防長

続いて、太田消防長に、「厚木市消防本部におけるコロナ感染者対応」と題し講話をしていただきました。

太田消防長は始めに、厚木消防の救急体制についての説明、市民・消防・医療機関が連携した救急体制の強化に取組み「救命都市あつぎ」を目指していることを皆さまに伝えました。

次に、救急現場の現状として、コロナを疑った救急患者の搬送状況や、前年の救急件数に比べ本年は約1600件減少しているなど、コロナ感染症に関係した情報と影響についての話や、現場活動隊員の感染防止に向けた取組などについてお話しいただき、参加者の皆さまも真剣なまなざしで耳を傾けていました。



座談会での意見交換風景



渡辺会長(左)と小谷理事長(右)

座談会では、今回のテーマを2つに分けて意見交換を行いました。

- ① 「新型コロナウイルス感染症の現状」
- ② 「これからを考える」

参加した皆様から積極的な質問や意見、各部会の状況など、様々な立場の方々と交流を深めることができ、大変有意義なものとなりました。



【第1部会 原 寿美 副会長】

- ① サービス業なので非常に気を使っている。幸い従業員からは感染者は出ていないが、今後も慣れることなく気配りをしていく。
- ② 体調管理について、今後も気を使っていく必要がある。新しい生活様式を続け、このまま少しずつ収束していけばと思う。

【第3部会 川副 正教 副会長】

- ① 感染症リスクの高い消防署では、感染しないための対応はどうしているか。
→ 太田消防長回答
仮眠室の分散、定期換気、常時マスクの着用など対応している。
- ② リモートも最初は馴染まなかったがだいぶ慣れてきている。これまでの経験を生かして対策に取組み、次に備えていきたい。



【第2部会 高橋 正行 副会長】

- ① コロナ感染症を疑った場合の基本的な行動（対応）について教えてください。
→ 太田消防長回答
まずはかかりつけ医に相談し、県の専用ダイヤルも利用してください。
- ② 感染対策については、基本的な予防と併せてお客様の要望に対応しているが温度差を感じている。飲食店のガス消費が落ち込んでいるので回復を願っている。

【第4部会 鈴木 一彦 副会長】

- ① コロナ感染者搬送での乗務員の身体的なケアのほかに精神的なフォローについての対応は。
→ 小谷理事長回答
精神的なケアについてかなり心配しましたが、乗務員からの不平不満は一切ありませんでした。
- ② 感染で一番危険なレジ打ちの従業員などよく頑張ってくれました。早く安全なワクチン開発により感染が収束することを祈っている。



座談会を聴講して

株式会社リコー 厚木事業所 神奈川総務室
室長 久保 由美



令和2年度は、コロナ禍ということもあり、例年10月頃実施されていた視察研修は、多くの会員・市民の方々に参加いただけるようリモートでの座談会開催となった。リモートによる座談会開催は、協会において初めての試みとなったが、参加者一同、マスク着用、受付での検温、手指消毒を実施し、壇上にはアクリル板が設置され、発表毎にマイク消毒を行うなど感染拡大防止対策は万全に実施された。

【ダイヤモンド・プリンセス号のコロナ感染者対応：小谷理事長】

全国で唯一の民間救急事業所団体で、全国に23事業所、搬送車両60台、乗務員約250名を有している。厚労省、国交省、神奈川県、横浜市からの要請を受けて横浜港入港のダイヤモンド・プリンセス号乗客のコロナ感染者対応にも携わられた。当初は、結核用の使い捨てエプロンを使用するなど、作業者はマスク着用の指示だけで、「1～2週間勤務⇒PCR検査⇒自宅待機」を繰り返していたこと、防護服の脱着の難しさ、エアコンを使えない過酷な環境下、手探り状態の中ご苦労されていたことが伺えた。

【厚木市消防本部におけるコロナ感染者対応：太田消防長】

厚木市（清川村含む）において、救急車8台、救急救命士48人、3病院、ドクターカーを展開。保健所からの依頼を受け、コロナ陽性者を搬送しており、感染防止対応としては、マスク、フェイスシールドなどの着用は勿論、2台の救急車をコロナ陽性者搬送専用車とし、ビニールシートで養生、搬送後は消毒をするなど感染拡大予防策を徹底している。救急搬送件数はコロナの影響か前年より減少しており、自粛で行動が制限されたこと、健康意識の高まりも影響していると考えているとのことだった。

【座談会】

各部会の特長を捉えた意見交換がされた。小売業のレジ打ちでは感染リスクが高い状態で勤務を余儀なくされていたこと、直接的な感染者発生には至らなかったが、接触者が発症した場合、念のためルートを消毒したなど、コロナへの対応について伺った。今後第2、第3波を考えると不安ではあるが、英知を集め、新しい生活様式に変えていかなければいけないと認識されているとのことだった。

【最後に】

私たちの身の回りでは有事の際、官・民合わせた強固な協力体制が取られていることに安心し、使命感を持ち危険な現場で働いていただいている方々に感謝すると共に、コロナについて常に正しい知識を持ち、怖がり過ぎることなく、万全の対策を実施し、感染者とならない・周りにうつさない・感染を拡大させないことの重要性を再確認した。